

令和8年度 研究・調査企画会議 事後評価部会（第3回）

議事概要

1 日時：令和8年9月4日（金） 13：59～15：02

2 場所：食品安全委員会第二会議室（Web 会議システムを利用）

3 出席者（5名）五十音順

荒川 宜親 藤田医科大学医学部客員教授

磯 博康 国立研究開発法人国立国際医療研究センター

国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター センター長

小澤 正吾 岩手医科大学 評議員

鬼武 一夫 日本生活協同組合連合会品質保証本部総合品質保証担当

松永 民秀 名古屋市立大学大学院薬学研究科特任教授

◎眞鍋 昇 東京大学名誉教授

（◎：座長）

その他、食品安全委員会から祖父江委員長ほか2名が、事務局から尾崎事務局長ほか7名が出席した。

4 議事概要

（1）令和7年度終了研究課題の事後評価（ヒアリング審査）

- 前々回及び前回の事後評価部会のヒアリング審査における各委員の意見を取りまとめて作成した各課題の評価所見（案）について、審議を行い、その結果を食品安全委員会に報告することとなった。

<事後評価対象課題>

- ・食品健康影響評価における OECD QSAR アセスメントフレームワーク (QAF) に基づく変異原性評価法の実装
- ・人工知能技術を用いた農薬評価書活用システムのフィージビリティスタディ
- ・ナノマテリアルの粒径閾値の設定に向けた経口毒性解析に関する研究
- ・日本で食経験の乏しい昆虫を新食品素材とする場合のリスク評価に関する研究
- ・HEV を中心とした豚由来の食中毒起因微生物のリスク評価に向けた研究
- ・我が国の特定原材料に対する網羅的なアレルギー症状誘発確率の推計とばく露評価に基づいた定量的リスク評価に関する研究
- ・有機フッ素化合物類 PFASs の食事を通じたばく露実態およびばく露経路に関する研究
- ・カドミウム土壤汚染地域住民の調査によるカドミウムの骨への影響と湛水管理の米中無機ヒ素濃度への影響についての検討

- ・ 残留農薬の遺伝毒性試験結果の解釈および評価方法の構築に関する研究

（２）食品安全確保総合調査の終了後の評価結果（案）について

令和７年度食品安全確保総合調査課題の終了後の評価結果（案）について事務局から報告され、当該案が了承された。

＜評価対象課題＞

- ・ アレルゲンを含む食品のファクトシート（くるみ）等の作成に向けた科学的知見の調査
- ・ 農薬リスク評価に関する海外状況調査（令和７年度）
- ・ 食品添加物のリスク評価に係る諸外国の状況調査
- ・ リスク評価における新しい評価手法の現状と必要性に関するヒアリング等の調査
- ・ ビスフェノールＡに係る国際機関等の評価及び科学的知見の情報収集並びに整理
- ・ 海面養殖における養殖水産動物に投与された抗菌性物質の水中への散逸による薬剤耐性菌の選択並びに薬剤耐性菌及び薬剤耐性決定因子の水を介した伝播に関する情報収集及び調査

－以上－

（注：本部会は個別具体的な研究者や研究課題名及び研究の内容に言及して議論が行われることから、非公開で行った。このため、本会議の議事概要についても、それらが特定されない形で公表するものである。）